

第5回東大阪市総合計画審議会 議事要旨

■概要

会議名称	第5回東大阪市総合計画審議会
日時	令和元年7月30日（火）10時～
場所	東大阪市本庁舎1階多目的ホール
議題	1. 開会 2. 議事案件 案件1 重点施策検討部会における検討状況（報告） 案件2 東大阪市第3次総合計画基本構想（素案）について 案件3 今後のスケジュールについて
出席者	（東大阪市総合計画審議会委員） ◎石田委員、○松浦委員、○川口委員、鈴木委員、住山委員、高畑委員、立花委員、田中委員、田野島委員、田間委員、堤委員、富田委員、中井委員、野口委員、濱橋委員、森（雅声）委員、森（優子）委員、森田委員、安田委員 欠席：猪野委員、茨木委員、大久保委員、河邊委員、北井委員、衣笠委員、阪口委員、坂本委員、濱谷委員 （◎…会長、○…副会長）
	（事務局） 経営企画部 松本部長 経営企画部企画室 竹本室長、西田室次長、谷主査、樋野主査、前田主任、南後係員、飯田室次長
会議の公開／傍聴人の数	公開／傍聴人2名

■議事（要旨）

案件1. 東大阪市第3次総合計画基本構想（素案）について

【大阪府の43自治体の人口の動きについて】

- 質疑なし

【基本構想（素案）について】

- 将来都市像について、「一」は何かキャッチフレーズを決めるときに結構邪魔になってしまうことが多いので、取ったほうがいいのか。【委員】
⇒元々ひと続きのフレーズというイメージで示していたが、どちらがメインなのかをはっきりと示す必要があると思った。「感動創造都市 東大阪」を前に出すべきだろうという意見をもとに、こういう形で示させていただいた。今の意見は「一」を取り、使い方についても柔軟にということなので、その点は再度検討する【事務局】

- 「感動創造都市 東大阪」がメインのターゲットなのか。【委員】
⇒元々「つくる・つながる・ひびきあう」と「感動創造都市 東大阪」は一体のものと考えていた。ただ、全体のフレーズとしては少し長いので、「感動創造都市 東大阪」が一番東大阪市のこれからを示す重要な言葉であるということもあり、メリハリをつけるとしたらこんな感じになるのではないかと示した。
【事務局】
- 私が普段接している論文のタイトルや本のタイトルから言うと、ハイフンやダッシュを使うのは副題、サブタイトルなので、そのまま読むと「感動創造都市 東大阪」が注釈というか、1 個情報のランクが下がっているように読まれてしまう危険がある。【委員】
- これがキャッチコピーである限り違和感はない。論文のタイトルでは確かにサブになります。キャッチコピーの場合、後ろに強調を持ってくるというよくある手法です。「ー」であったり、「～」であったり、またはダブルクォーテーション「 ” ”」をつけたりして、後ろを強調し目立たせるのはキャッチコピーとしての手法かと思う。ただ、ここに「ー」が要るかどうかという点では、今後印刷しにくいなど表現に制限がかかるという意味で、検討が必要だと思う。【委員】
- 論文のタイトルとしては副題だが、キャッチコピーとしては、これでいい場合もある。もう1つ、「つくる・つながる・ひびきあう」のほうにウエイトがあると思っていたが、今の話だと「感動創造都市 東大阪」のほうにウエイトがある。そういう意味では、例えば前のほうの字を少し小さめにするなどして、後ろを強調することで誤解がなくなると思う。【委員】
- このハイフンはサブタイトルのように感じていたので、ハイフンはなしという考え方はよい。ただし、ハイフンを取ってしまうと前の枕詞と同等のインパクトになってしまうので、カギカッコをつけたらどうか。【委員】
- できるだけ要らないものはつけないほうが格好いいという、スタイルがある。一時期はハイフンをつけるキャッチがはやっていたこともあるが、今の時代として、何もないほうがしっくりと、皆さんに見えていただけたらと思う。【委員】
- 一般市民にしたら、カギカッコであろうがハイフンであろうがどっちでもいいこと。キャッチコピーとして「つくる・つながる・ひびきあう」が前に形容詞的にあるというのでよい。【委員】
- 枠がないことを想定したときに、「感動創造都市 東大阪」の文字数が多くなれば、見たときにしまりがいい。【副会長】
⇒インパクトを与える意味で「つくる・つながる・ひびきあう」というのは市の思い入れが相当強いと思う。だからこれは大きく出したいと察する。
最終日にあまり議論をするのは時間の問題もあるので、むしろこのままで、四角の枠は外れるのだから、ハイフンは入れたほうがいいということだと思う。【会長】
- 四角の枠を取ったときに、キャッチフレーズ的に文字を大きくするのもありなのかと捉えたが、どのように考えているか。【委員】
⇒これからの時代に新しい価値を創造していく、そういった意味合いをまずは言葉

として、市民の皆様はこの総合計画で示して共有する。そして、これを外に出していきたい。そういった中で、例えば「感動創造都市」を大きく持ってきて、上に小さく「つくる・つながる・ひびきあう」を乗せてロゴ化するなどのいろいろな柔軟な使い方ができると考えている。【事務局】

- 「つくる・つながる・ひびきあう ー感動創造都市 東大阪ー」、この文言についてご承認いただき、表示の仕方をこのままとするかどうか、工夫した結果を会長・副会長にお預けいただくということによろしいか。【会長】
- 異議なし【全委員】

案件2. 東大阪市第3次総合計画基本構想（素案）に対する答申文案について

- 内容は、特に異存ないが、表現として、中段の2段目、「本格的な人口減少社会の」で始まる段落の2行目に「取り巻く社会情勢はめまぐるしく変化しており」とあるが、人口減少社会、少子高齢化、これらは容易に予測できていたもので、めまぐるしい変化ではないと思う。非常に気にかけるべき重大な点であるということ強調されたと思うが、表現としてはいかがなものかと感じた。もう1点、その下、「1. 重点施策を着実に推進すること」の3行目に“「人が集まり、活気あふれるまちづくり」）を掲げているが、”ということで反語を使われている。ここは「掲げている。」と切り、“これらの内容は、”に続け、最後は“推進を図りたい”がよろしいかと思う。ここで「が」をつけると、前のものに対して異なることを並べたいという文脈になるので、こちらは「。」をつけることを提案する。【委員】

⇒意見を踏まえ文言を修正、検討させていただく。【事務局】

- 社会情勢はめまぐるしく変化していないか。【会長】
- 一般的な社会情勢という点ではおっしゃるとおりだと思う。ただ、この一文に限ると、前段に人口減少と少子高齢化、そしてその後ろの人口減少社会への対応ということで、人口に関してのみ言及しており、単に人口減少、少子高齢化という点ではめまぐるしくない。【委員】
- それでは、ただいまいただいた意見を参考に、一部内容を修正することも勘案しながら一任いただきたいと思います。【会長】

案件3. 今後のスケジュールについて

- 質疑なし

閉会挨拶（会長、副会長）

以上